

## 故郷へ錦を飾る

「故郷へ錦を飾る」という言葉を知っていますか。故郷を離れていた人が、立派になって帰郷することを意味します。今日はそれを成し遂げた人物の話をしてします。

最近、北中がこれまでに以上に世間から注目を浴び始めています。いつも通りの学校生活が進む中、来客が多くなっています。昨日も何名かの来客があり、見慣れない方々が廊下を歩いていたり、立ち止まって校舎を眺めたりしていました。皆さんは気付きましたか。

昨日は、日本建築家協会主催の環境建築賞審査が本校で行われました。学校生活に影響が出ないように配慮して、ひっそりと行われました。その前には、北中がゼロエネルギーを達成したということとで、「カーボンニュートラル賞」の「選考委員特別賞」を受賞しました。来月、北中において、報道関係者を対象にした記者説明会が行われます。今後ますます来客が多くなることでしよう。

そんな北中の校舎を設計したのは、東京に本社のある「日建設計」という会社です。大きな設計会社で、皆さんの知っている建物の中では、NHKホール、大阪ドーム、さいたまスーパーアリーナ、東京スカイツリーなどが、その会社の設計した建造物です。

そんな有名な建物を設計する会社だから、設計士もさぞやすごい人ばかりと思いきや、何と、北中を担当した設計士グループの中に、若干三十七歳の瑞浪市出身の方がいます。

その方はM・K氏と言います。昨日の審査にも、彼は上司と共に参加していました。私は二人と少し言葉を交わしましたが、上司の方の言葉が印象に残っています。

「こわくは彼の時代です。彼のような若い設計士が中心となっていきます。」

M・K氏は設計グループの中で最も若いようです。そんな彼が、故郷瑞浪の一大プロジェクトに携わり、世の中の注目を集めるような素敵な建築物を手がけました。来月の記者説明会では、会社を代表して若い彼が説明を担当すること。瑞浪で生まれ、瑞浪で育った彼が、瑞浪を離れ、立派な設計士となって瑞浪市に貢献したのです。まさに「故郷へ錦を飾った」と言ってもよいでしょう。

帰り際、私は彼に尋ねました。

「今日、大阪から瑞浪にいらっしやっただすよね。瑞浪の実家には寄られないのですか。」  
すると彼はきっぱりこう言いました。

「まだまだやらなければならぬことがあるので、今日は寄らずに大阪に戻ります。」

錦を飾った彼のゴールはまだまだ先のようです。地元出身者が精魂込めて設計した瑞浪北中学校であることを、皆さんも忘れないてくださいね。

(十一月五日 記)



カーボンニュートラル賞の賞状です。